

答 辞

肌を刺すような風も次第に力を弱め、暖かい日差しに春の香りを感じさせる今日、私たちのためにこのように素晴らしい式典を催してくださいまして、ありがとうございます。また、来賓のみなさま、保護者のみなさま、私たちのために足をお運び下さり、ありがとうございます。在校生やみなさまからのたくさんのお祝いの言葉、私たちの胸に深く刻まれました。卒業生一同を代表して、厚く御礼申し上げます。また、附属中学校におきましては、記念すべき第一期生、十五名の卒業式となりますことを、共に喜び合いたいと思います。

一ヶ月ほど前から、「卒業」という言葉を意識し始めていましたが、正直実感が持てずに過ごしていました。

何気ない毎日でしたが、そんな日々を、もう味わうことができななんて、とても考えられません。

「おはよう」から始まり、「また明日」で一日が終わる。

当たり前だったことは、実はとても幸せなことだったと、今になって気づかされます。三年間を振り返ってみると、本当に「あつという間だったな」としみじみ思います。

入学式の日のことは、今でも鮮明に憶えています。

驚くほど静かで、仲良くなれるかなと思っていましたが、人数が多い分、個性も豊かで元氣いっぱいクラスでした。そして、何をするにも一生懸命で素敵な人たちばかりでした。

そんなクラスメイトと過ごす毎日は楽しく、あつという間に一年が過ぎました。

二年生になると、部活動で主力になり、忙しい日々でしたが、その明るさと根性を武器にし、時にはライバルとして切磋琢磨し合うことができました。特に楽しみにしていた修学旅行は、想像以上に楽しかったです。バス移動ではまるで宴会のような盛り上がりで、バスガイドさんと運転手の方にも楽しんでいただいて時間を忘れてしまうほどでした。

そして、何よりも自分のことよりも他人のことを考えて行動した、みんなの優しさを感じることができました。そんな修学旅行は、特別な思い出です。

三年生になると、より一層勉強と部活動に力を入れるようになりました。しかし、新型コロナウイルスの影響で例年どおりにはいかない一年でした。

学校行事も、制限が多くなりました。時には他校の活動を聞き、うらやましく思ったこともあります。ですが、限られた中でも楽しんでいて、みんなの笑顔がとても印象に残っています。

二高附属中学校のみなさんにとって三年間は、勉強が忙しく、慌ただしい毎日だったと思います。そんな苦労の中、何事にもまっすぐで、頑張り屋のみなさんを見て、私たちは

元氣をもらってしまいました。三年生のみなさんは先輩がいない中で、すべてを自分で創り出す日々だったと思います。先駆者として走り続けたことに自信をもち、これからも勉強や部活動に力を入れて頑張ってください。

大きなイベントはもちろんのこと、合宿に参加したこと、友達や先生の誕生日をお祝いしたこと、みんなでお昼ご飯を食べたこと、誰が一番前になるかドキドキした席替えも、閉じてきそうなまぶたをなんとか持ち上げて受けた授業も、そのどれもが忘れたくない思い出です。そんな一日一日を後輩のみなさんも大切にしてください。

私にはどうしても感謝の気持ち伝えたい人たちがいます。

まず、ソフトボール部の部員たちです。キャプテンとして部員をまとめ、支えなければならぬ立場でしたが、いつも助けられてばかりでした。

合同チームを組まざるを得なくなり、全く勝てず、精神的にも疲れた私は、部活にいけなくなった時期がありました。迷惑をかけていたのに、部員たちはどこまでも優しく受け入れてくれました。「部活が楽しい」と練習に取り組み姿に何度も励まされました。最後の大会は、絆の強さでつかみとった勝利でした。競技を楽しむ気持ちと仲間を想う気持ちが一番大切なことだと、改めて教えてもらいました。ソフトボール部に限らず、後輩のみなさんの一生懸命な姿に私たちは勇気づけられ、何度も助けられました。その良さをこれからも活かして頑張って欲しいです。

本当にありがとうございます。

クラスの友人たちは、普段は陽気なみんなですが、悩んだ時は親身になって話を聞いてくれました。自分のことのように悩んでくれたことが本当に嬉しく、心が軽くなりました。大きな支えだったみんなは私にとって太陽のような存在で、まわりの人に恵まれていると心から思いました。

本当にありがとうございます。

次に、先生方です。

コーヒーが苦手なのに休日に自分でコーヒーを煎れなくなってしまう先生。私たちとの心の距離をあっという間に縮めてしまう、いたずらっ子のような先生。いろいろな先生がいて、毎日楽しい、居心地の良い学校でした。私たちはこれまで、たくさん迷惑をかけてしまったと思います。それでも、最後まで向き合い、ご指導して下さいました。すべての先生方にとっても感謝しています。進路のことにおいても、自分のことのように考えてくださったおかげで、最後まで諦めずに努力することができました。

本当にありがとうございます。

家族にもお礼を言わせて下さい。

進路で迷ったとき、意見を尊重し、決断させてくれたこと、とても感謝しています。おかげで、自分の道を見つけることができました。

時にはぶつかりあったこともあると思います。それでも毎日の送迎、お弁当づくりなど、私たちのことを一番に考え、見守っていてくれてありがとうございます。これからも応援してして下さい。

最後に伝えたいことがあります。私たちを楽しませてあげられなかった、力になれたか心配、と思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちは、自分たちをかわいそうだと思ったことは一度もありません。苦労はあったけれど、その分強さと優しさを持った、すべてのことへ感謝することを深く知った特別な卒業生だと思っています。本当に充実した時間を過ごすことができました。

高校生活、中学校生活の三年間もあっという間に過ぎ、いよいよ今日、卒業します。

私たちはこれからきつと辛いことにも素敵なことにも出会っていくでしょう。それぞれ形は違うと思いますが、工大二高、そして附属中学校での笑い合えた日々を思い出せば、乗り越えていけると思います。ここでの学びと思い出を胸に、諦めない心とチャレンジ精神を常に持ち続け、夢に向かって精進していきます。幸せな毎日をありがとうございます。

この学び舎が、これからも生徒の夢に寄り添い、応援してくれるあたたかい学校でありますように、そしてここに集ってくださった皆様お一人おひとりが、ご健康で幸せでありますようにお祈りし、感謝の意を添えてお別れの言葉といたします。

令和三年三月二日

令和二年度 卒業生代表 高橋 実羽